

第2回 三谷地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成30年8月5日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：三谷公民館 大集会室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
あいさつ	
事務局から説明	1：35
<ul style="list-style-type: none">・ワークショップの趣旨・目的・進め方とスケジュール・前回ワークショップでのご意見・ご質問等への回答・三谷地区の公共施設をとりまく課題・課題解決に向けた視点の整理・本日の検討内容	
(休憩)	2：15
グループ討議	2：25
<ul style="list-style-type: none">・三谷地区の課題・課題解決の方策	
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第1回ワークショップの結果概要（案） 7
- ・ 第1回ワークショップふりかえりシートご意見 13
- ・ ご質問等への回答 18
- ・ データで見る三谷地区の現状 27
- ・ 課題解決に向けた視点の整理 38
- ・ 第1回ワークショップでいただいたご意見の整理 39
- ・ 本日の検討内容 43
- ・ コミュニティ施設の複合化・集約化事例集 別冊

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた三谷地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

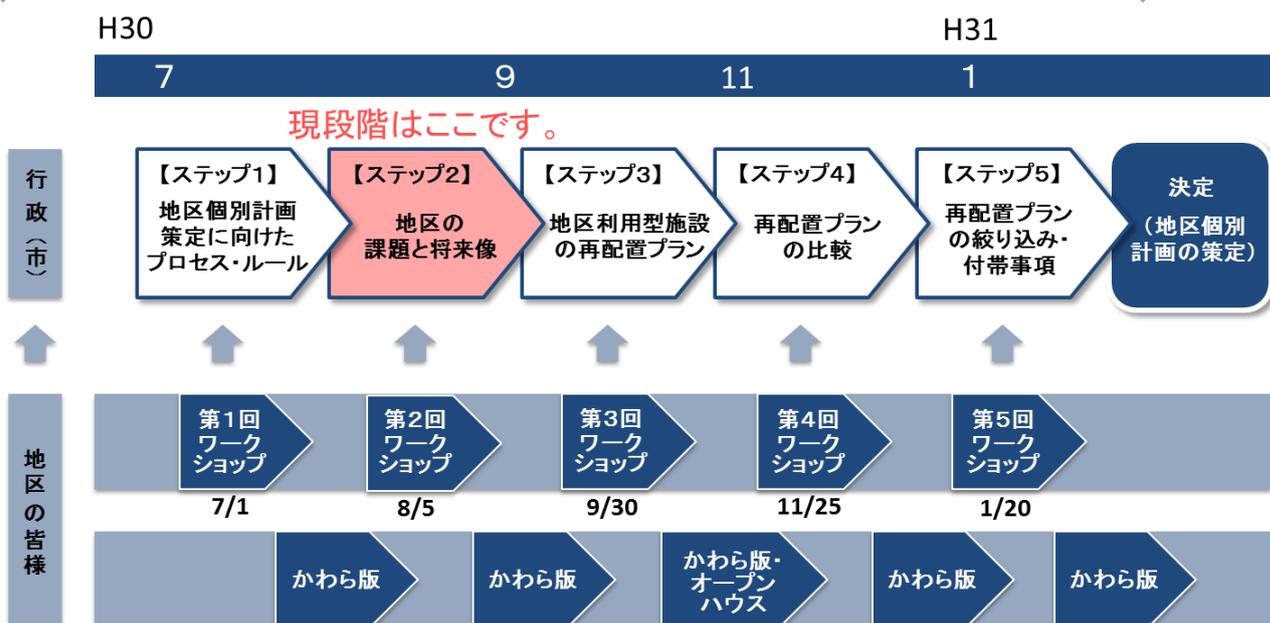
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ワークショップ
- オープンハウス（パネル展示型説明会）
- かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、平成31年1月までに5回開催します。
- 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- 会場は、原則として地区内の学校または公民館とします。
- 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由に前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。会場内で録音・撮影する場合がありますことをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします～

しのだ 篠田	さやか	オフィスキュア
おぐち 小口	ゆうこ 優子	有限会社 まち処計画室
なばた 名畑	めぐみ 恵	NPO 法人 まちの縁側育くみ隊
かつらやま 葛山	としあき 稔晃	株式会社 対話計画
こなか 小仲	たかひろ 貴宏	NPO 法人 まちの縁側育くみ隊
いなば 稲葉	ひさゆき 久之	フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第1回ワークショップの結果概要（案）

1 計画検討やワークショップの進め方について

1) 公共施設マネジメント実施計画の考え方

- 生活が不便になればますます人口は減ると思うので、縮小ばかりを考えず、商業振興などの人口を増やすための施策に投資をすることも必要だ。
- 本当に将来の維持更新費が足りなくなるのか。長寿命化の考え方や平均値の取り方など、シミュレーションの方法に疑問があるので説明を聞いても納得できない。データの根拠を示してほしい。
- 個別の施設に耐震化をして投資を分散させるよりも、新しい施設に集中させた方が無駄がないと思う。将来的に子どもの数が更に減っていくなら、学校を整理することも含めて早期に配置計画を検討すべきだ。

2) 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 公共施設の再整備を考える前に、目指すべきまちの将来像を描く必要があるのではないか。
- 行政区と学校区が異なることが地域にとっての課題になっている。三谷中学校区だけでなく、地域の子供達の一部が通学している竹島小学校と蒲郡中学校、ひいては近接している東部小学校も含めて、施設の再編を考える必要があると思う。
- 学校に他の施設を複合することが前提ではないとのことだが、地区内にある検討対象施設が学校、公民館、保育園などとなると、学校に集めることになるのかと思った。
- 地区個別計画では地区利用型施設だけについて検討するということが、地区内の公共施設の配置バランスを考えると、全市利用型施設の配置も踏まえる必要があると思う。地区利用型と全市利用型の施設配置計画の整合をどのようにとるつもりなのか市の見解を聞きたい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

3) ワークショップの進め方

- ワークショップの最終的な成果がイメージできないので、ワークショップの意見が市の最終案にどのように、どのくらい反映されるのかがわからない。
- ワークショップが話し合ったという事実だけを作る場にならないために、出された意見がどのように反映されたかやワークショップを通じて検討された計画の進捗状況などを、参加者にしっかりフィードバックしてほしい。
- ワークショップの中で意見が分かれた場合には、熟議によって共通の方向性を探ることも必要だと思う。そうしないと単に意見を聞く場になってしまっているのではないか。
- 公募の参加者がもっと増えると良い。会の目的がわかりやすい名称に変えるなどの工夫をして関心を高め、参加を促すようにしてはどうか。
- 計画案を机上の空論にしないためには、施設の管理者や保育園の保護者などの利用者の意見を聞くことも大切だ。ワークショップに参加してもらえなくても、アンケートや現場調査などを行えると良い。
- 地区ごとの課題や各世代が感じている意見を出し合って、まとめていく検討プロセスに特に異論はない。住民に広く計画を知らせるために、ワークショップだけでなく地区のイベントを活用することも考えてはどうか。
- 複合化のメリットとデメリットや地区別の将来人口などのデータを示してもらい、施設の組合せや小学校の統合を検討する際の判断材料にしたい。

2 地区のまちづくりや公共施設について

1) 地区のまちづくりの方向性

- 子どもから高齢者までが住みやすいまちを目指して、多世代の交流が図られ、子育てしやすい環境づくりや教育の質の向上につながる計画を作ってほしい。
- 西区では一部竹島小学校に通っている子ども達がいるので、地区住民としての意識が低下し、地区の一体感に欠けてきているように思う。行政区と学校区が異なるのは、所属するコミュニティがちぐはぐになるということでもあり、子どものためにも良くない。学校区の変更や選択性の導入を検討できるとよい。
- 若い世代の感覚としては、現状の行政区と学校区の違いをそこまで問題視していない。竹島小学校に通っていても三谷祭りには協力してくれているので、それだけでもありがたいと思っている。
- 三谷祭の伝統や風習を背景にした三谷のコミュニティを今後も守っていききたい。閉鎖的とも言われるが、一旦馴染めば良好な関係性が築ける土地柄なので、地域コミュニティの形成や主体的な活動が促されるような計画づくりができると良い。
- 区によって人口や世帯数などの状況が違うので、それぞれの区の実情に沿った計画を作ってほしい。

2) 公共施設の現状や今後について気になること

■ 公共施設全般

- 施設を複合化して 1 つの施設が様々な目的を持つことで、利用者が多様化し、利用率のアップや多世代の交流の創出などのメリットが生まれると思う。ただ同時に、子どもと高齢者が一緒にいることは難しいのではないかと思う。
- 学校の空き教室やまちなかの空き家などを有効利用することを考えてはどうか。空き教室を利用する際には、十分な機能を果たせるだけのスペースが確保できるかを検討した上で、学校に多くの人が入り出すことによる危険性などのデメリットにも配慮する必要がある。
- 学校を始めとして老朽化している施設が多く、対策が必要だと思う。三谷地区は海に近いので、津波や強風などの災害による被害も心配だ。
- より多世代が利用しやすくなり利用率を向上させるためには、ハード面だけでなく、利用ルールの緩和や予約方法の簡素化などのソフト面の整備も必要だ。
- 公民館などの公共施設をほとんど使っていない若い世代などは、利用方法やどんな活動ができるかなどがわからない状況ではないか。
- 放課後の子ども達の居場所、デイサービス以外の比較的元気な高齢者のための施設、学習スペースのある図書館などが地区にあると良い。
- 三谷駅や公共施設の駐車場が少なく、路上駐車の問題も発生している。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 小学校・中学校

- 小学校も中学校も老朽化しているので、子ども達の安全が確保できるかという不安がある。避難所でもあるので、施設を新しくするならば学校だと思う。安全な避難所があることは人口の流入にもつながるのではないかな。
- 小学校の生徒数が減っていることを考えると、三谷小学校か三谷東小学校かのどちらかに統合するのがこの地区の個別計画のポイントになると考えている。各校の伝統や災害時の安全性などの様々な観点から、統合の方向性を検討できると良い。
- 学校を小さな子ども達から高齢者まで多世代が交流できるような施設にできると良い。
- 三谷東小学校の児童クラブは三谷東小学校にあるが、三谷小学校の児童クラブは児童館を使っている。子どもの放課後の居場所として、小学校をもっと活用してほしい。

■ 保育園

- 三谷西保育園と三谷東保育園をひとつにまとめて、災害の危険性のないところに新築できると良いと思うので、保育園の統廃合を進めてほしい。
- 市内のバスや保育園バスなどを活用することで、保育園の送迎の負担を軽減できないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 公民館

- せっかく良い施設があるのだから、営利目的にも使えるように規制を緩めたり利用を促すソフトを展開することで、公民館を祭りや日中の年配層利用以外にも使われる場にとできると良い。
- 公民館は祭りの際に重要な施設で、立地的にも使いやすい。無料で使える場を必要としている現状の利用者にとっても欠かせない施設だ。ただし、高潮の影響などの心配がある。

■ 児童館

- 児童館の建物はまだ新しいので、1階のデイサービス部分が空くのであれば、図書館などの機能を入れて有効活用できると良い。

3 その他

- 地区の集会所が老朽化しているので、安全性確保のためには耐震化する必要があるが、状況は地区によってまちまちだ。公共施設の複合化や集約化を検討する際は、集会所の建替え状況も踏まえる必要があるのではないか。
- 消防団倉庫は今回の議論の対象ではないが、建て替えが必要な時期を迎えているので、他の機能を複合することなども考えながら検討してほしい。
- バスの利便性、不審者による治安の悪化など、地区には公共施設以外の課題もある。
- ワークショップの資料を送付する際には、一目でそれとわかるような封筒にするなど、他の郵便物と間違えないように配慮してほしい。

第1回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 蒲郡市の財政状況、公共施設の状況などが理解できたこと。
- いろいろな意見、考えが聞けてよかった。
- いろいろな意見が出てよかった。市の示した状況がほんとうにそうなのか？という事を現場で調査したほうがいいという意見には感心させられました。
- 人口減少と高齢化と少子化。
- 若者が少ない。
- プライドが高い人が多い。
- 学校の統合。
- 高齢者～子供までの集まれる場所。
- このような話し合いはよかった。
- 一人一人しっかり話し合いをできてよかったと思います。いろんな意見を聞けてよかったです。
- 大変良かったと思います。
- それぞれの考えが多くでてきたことが良かった。共通認識として「竹島小学区」の問題が確認できた。
- みなさんが好き勝手にしゃべっていたこと。
- 自分が思っていた事がちがう角度からの意見も聞けて良かった。
- 皆が自分の体験から自由に意見を出せた。
- 自分の知らない話も聞けたので良かったです。
- グループ分けでの話し合いはとても良かったと思います。
- 私は聞くばかりでしたが、みなさん良い意見をたくさん出していました。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 年齢層や背景が多様にわたる方々の意見が伺えて、多くの気づきにつながりました。
- グループで分かれて議論していたが同じ様な意見が出て問題点が少しずつ見えてきた様に思います。
- グループ内では年齢によって違う意見が出て良かったです。
- 町の将来像など考えてから、建物の縮小を考える。子育てのしやすい町。
- 同じテーマでも、グループごとに同じように出てきた話題とまったく違った切口だったりで、いろいろな意見が出ていてよかったと思います。
- 全体に活発で良かったです。
- 今の時代に見合った地域
- 全体的に三谷の現状が良く分かった。
- ファシリテーターの方が誘導してくれ、みなさんからいろんな意見を聞いた。ブレストっぽく、論点が散漫になっていたが、うまくまとめてくれてイメージを共有できた。
- 言いたい事がみなさん言えたと思います。
- グループ討議により一人一人の考えをじっくり聞くことができてよかった。
- 初対面でしたがスムーズに意見も出せた気がしました。
- 皆様の「三谷愛」が伝わった。

2 内容について言い足りなかったこと

- 民間施設の活用。(スペース、スタッフのシェアリング)
- 三谷地区も市も情報発信が足りていない感じがしました。住民に対しても、他の地域に住んでいて、自分の人生をおくる場を捜している人達に対しても、ネットを活用して、もっとうまく、多く情報を発信すべきではないか?!
- 安全な場所—小学校・中学校・公民館
- 避難場所の老朽化
- 総代さんの責任 ブロック塀
- 時間が足りない。
- 公共施設の統廃合について
- このワークショップの場の役割や意義
- 20代、30代の参加者が少ない。
- グループ内の地区に偏りがある。
- 時間が短かった。
- いっぱい。
- 子供の居場所がないので、デイサービスに併用してほしい。
- 特に今回はありません。
- 特にありません。次回に持ってきます。
- “読んでわかる”よりも“見てわかる”資料の方が意見を考えやすい。
- あまり解らないです。
- 参加年齢の問題。
- 特にありません。
- なし。

3 今日のワークショップの進め方について

- 現場の意見をもっと聞くべきだと思います。
- 4つのグループ討議は、大変よかったと思います。
- 30代40代の方の参加がもっと多くなるとよいかと…とにかく、子供の数を増やさずして、三谷の未来はないと思います。
- 三谷祭のメリット、デメリットも考えるべきかな?!
- 司会の篠田さんがお上手でたくさん意見が出ました。
- 無料で使える施設を大切に。会館・公民館・1施設1目的ではダメ。多用に活用する考慮。
- 若い方も入っての話し（当事者）もよいかも。
- 進め方に問題はありません。
- 良かったです。
- OK
- 事務局からのご説明は、ぜひスライドを活用して（枚数を増やすなどして）ポイントをしばってほしかった（前半の方）
- 特定の方が長く話す傾向が強かったので、もっとファシリテーターさんには積極的に介入して仕切ってほしい。
- 春日浦の封筒は不適當だったと思います。（自分に関係ないと思い、あけていない。）
- 良かった。
- 時間不足でした。いただいた資料で各施設のポートフォリオとは何か、全く分からない。老朽化度、偏差値等、どう読むのか？
- 具体的に進めてもらいたい。
- グループでほぼ発言されていない方がいらしたので、その方の意見が気になりました。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

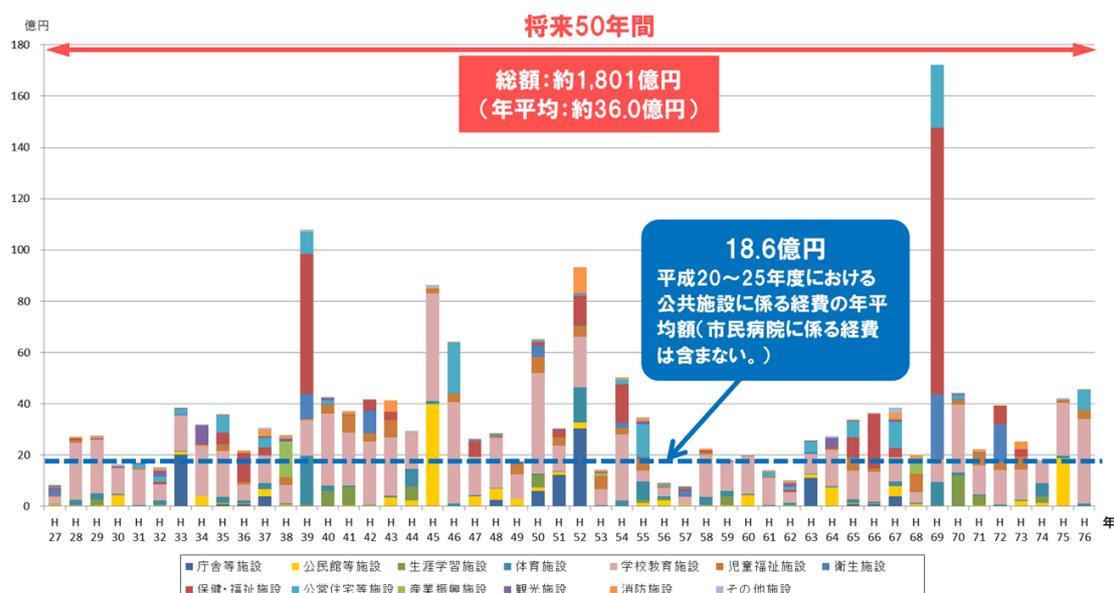
- 意見が言いやすい感じでよかったです。
- 良かったと思います。
- なごやかな雰囲気の中で進められていて良かったと思います。
- ファシリテーターの方の説明が良かった。
- 将来の実行についていつ頃反映されるのか？※参加者への話し合いに積極的に参加する為に参加要請の方策！！
- ホワイトボードを各チームに配布してほしい。
- この進め方で良いと思います。
- 平成は 32 年はありませんので、表記を消す様にしてほしいと思いました。

ご質問等への回答

1 お示した資料について

- 本当に将来の維持更新費が足りなくなるのか。長寿命化の考え方や平均値の取り方など、シミュレーションの方法に疑問があるので説明を聞いても納得できない。データの根拠を示してほしい。

図表1 公共施設の維持更新にかかる将来費用の推計



【費用推計について】

前回お示した「公共施設の維持更新にかかる将来費用の推計」(図表1)は、各施設を現状の規模のまま維持することを前提に、建築後15年で軽微な修繕、30年で大規模改修、45年で修繕、60年で建替えを実施すると想定して費用を積み上げています。(「標準シナリオ」と呼んでいます。)

一方で、「平成26年度蒲郡市公共施設白書」では、建替えのサイクルを一律に80年に設定し、修繕・大規模改修・建替えの間隔を延ばした「長寿命化シナリオ」を示しており、この場合は、平準化により1年あたりの費用が低下する試算結果となっています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」では、目標達成ために長寿命化を実施することとしておりますが、これは、全ての建物で「長寿命化シナリオ」どおりに長寿命化を実施するのではなく、施設によって個別に判断し実施していくことで、更新時期と費用の平準化を図るものです。

長寿命化で建物の老朽化を遅らせて、長期にわたって安全に利用するにはコストがかかります。このコストは、建物の老朽化状況によっては多大になる場合もあり、一律に長寿命化を実施することは、適切ではありません。

限られた財源の中で長期にわたって維持するコストと建物を更新するコストのバランスを十分に考慮して施設の更新時期の平準化を図っていきます。

また、「平成 20～25 年度における公共施設に係る経費の年平均額」として 18.6 億円の値を示していますが、これは、試算を行った前年度までの 6 カ年度の平均額です。この期間中は、消防署の建設や形原中学校校舎の建替え、形原公民館の建設、蒲郡公民館の建替えなどがあり、事業が少なかったとは言えないと考えています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- いただいた資料で各施設のポートフォリオとは何か、全く分からない。老朽化度、偏差値等、どう読むのか？（ふりかえりシートより）

【ポートフォリオ分析について】

偏差値を算出し、二軸上のグラフに各施設の値を示し、類似施設用途間で相对比较する手法をポートフォリオ分析といいます。

「平成26年度蒲郡市公共施設白書」において、公共施設の状況を「品質」・「供給」・「財務」の3つの観点から評価を行いました。

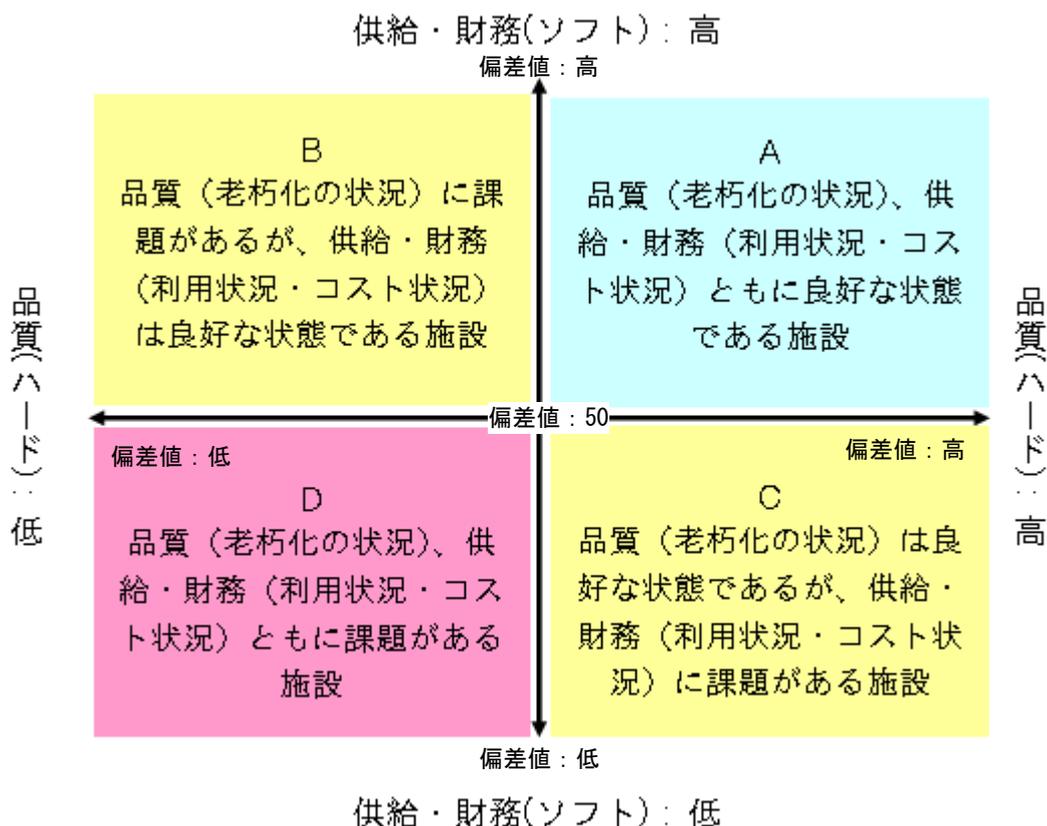
「品質」は、「市民が安全・快適に施設を利用できるか」を示しており、経過年数や劣化度などを指標とします。「供給」は、「行政サービスを効率的に提供できているか」を示しており、利用者数や利用率などを指標とします。「財務」は、「適切な経費で施設が運営されているか」を示しています。

これらの指標の偏差値を算出し、図表2のとおり、品質状況（ハード）を横軸に、供給・財務状況（ソフト）を縦軸に、偏差値50点を中心としたグラフに、各施設の値を示すと、その示した位置により、各施設の状況を把握することが可能となります。

「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」では、この方法による評価を適宜実施した上で、施設整備の方向性を検討することとしています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

図表2 評価結果の解釈



出典：蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

図表3 分析結果と方向性（分析結果から得られる解釈）

分析結果	方向性（分析結果から得られる解釈）
「A」 品質：高 供給・財務：高	<ul style="list-style-type: none"> ハード、ソフトともに機能に課題が少ない施設 基本的には、現状のまま運営するが、適正配置の観点から統合・再編の対象となる場合もある。
「B」 品質：低 供給・財務：高	<ul style="list-style-type: none"> ハード面から見た機能に課題がある施設 運営状況は良好であり、効率的に行政サービスが提供されている。 改修又は改築を行い、現状のまま運営する。あるいは、他の品質の良い建物がある場合、移転を検討する。
「C」 品質：高 供給・財務：低	<ul style="list-style-type: none"> ハードとしては良好な状態にあるものの、利用が少ない、コストがかかりすぎている等の課題があり、効率的に行政サービスが提供されていない可能性がある。 他の施設への用途転用や、統合の際、他施設を受け入れる候補となる。
「D」 品質：低 供給・財務：低	<ul style="list-style-type: none"> ハード面から見た機能に課題があり、改修又は改築が必要である。 利用が少ない、コストがかかりすぎている等の課題があり、効率的に行政サービスが提供されていない可能性がある。 集約化・複合化・転用又は売却・貸付等を図る。

出典：蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【老朽化度について】

資料では、「平成26年度蒲郡市公共施設白書」策定の際に、各施設の老朽化状況について、建築士による診断を行った結果を「老朽化度」として示しています。

老朽化診断は、各施設の建物ごとに調査を行い、外部（屋根、外壁、建具等）、内部（天井・床・壁等）、電気設備、給排水設備、空調設備、搬送設備の6項目を設定し、部位ごとに5段階での判定を実施しました。判定にあたっての考え方は、図表4のとおりとしました。

図表4 老朽化判定の基本的考え方

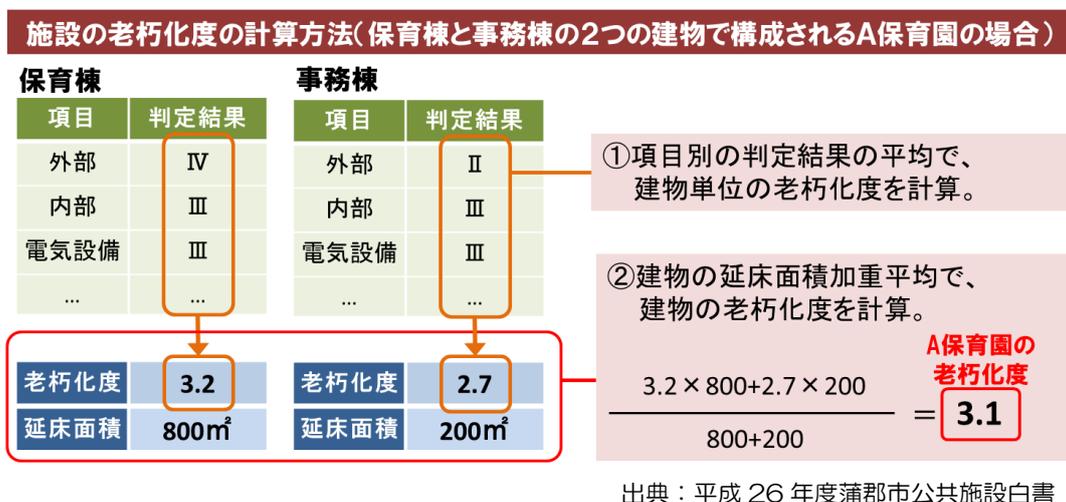
判定結果	老朽化診断	対 応
I	老朽化が見られない健全な状態。	特に対応の必要性はない。
II	ほぼ健全な状態。	計画的な保全を継続。状態は常時監視。
III	老朽化が進んでおり、放置すると機能低下又は寿命が早まる。	今後4～6年程度に改修が必要。
IV	老朽化が進んでおり、大きな機能低下が発生している。	今後3年以内に改修・更新が必要。
V	老朽化がかなり進んでおり、安全性を損なう可能性がある。	安全性や機能面から重大な影響を与えるおそれがあり直ちに改修が必要。

出典：平成26年度蒲郡市公共施設白書

老朽化診断により判定した部位ごとの判定結果の平均値を、各建物における老朽化度としました。複数の建物で構成される施設の老朽化度は、各建物の部位ごとの老朽化判定結果の平均値を、建物の延床面積で加重平均した値としました（図表5参照）。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

図表5 施設の老朽化度の計算方法



「平成26年度蒲郡市公共施設白書」における老朽化度は、一般的に次のとおり解釈できます。

図表6 蒲郡市公共施設白書における老朽化度の解釈

老朽化度	解釈	対応
2未満 (レベル1)	ほぼ健全な状態。	計画的な保全を継続。状態は常時監視。
2以上3未満 (レベル2)	一部の部位・建物に老朽化が進行している箇所が存在。	老朽化箇所に対し、早急に修繕・改修を実施することが望ましい。
3以上4未満 (レベル3)	施設全体において老朽化が進行している。	施設全体を改修することが望ましい。
4以上 (レベル4)	施設全体において老朽化がかなり進行しており、老朽化箇所によっては、安全性を損なう可能性がある。	早急な改修が必要。安全性を損なう可能性がある箇所については、直ちに改修が必要。

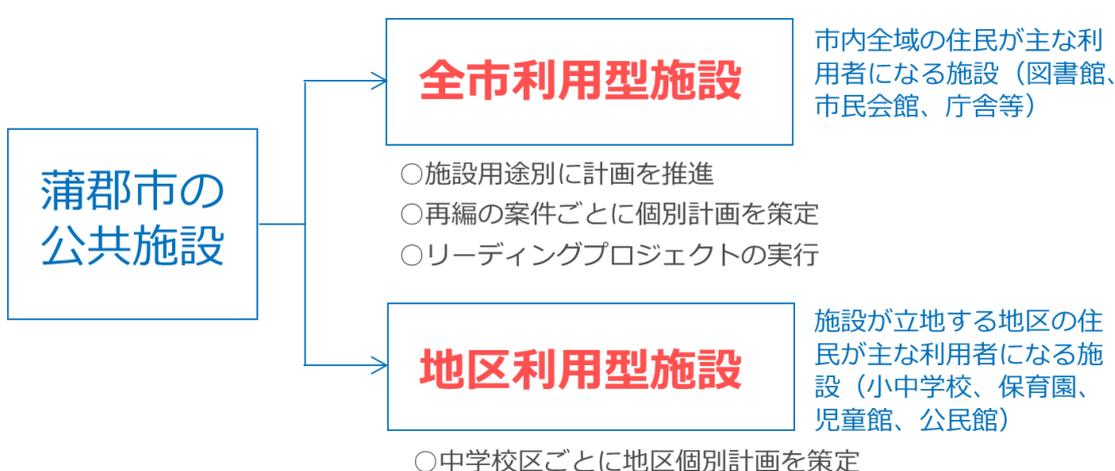
出典：平成26年度蒲郡市公共施設白書

2

本市の公共施設マネジメントの取り組みについて

- 地区個別計画では地区利用型施設だけについて検討するということが、地区内の公共施設の配置バランスを考えると、全市利用型施設の配置も踏まえる必要があると思う。地区利用型と全市利用型の施設配置計画の整合をどのようにとるつもりなのか市の見解を聞きたい。

図表7 施設の分類



【施設の特性に応じた計画策定の考え方について】

これまでに実施した市民会議等でいただいたご意見を踏まえ、蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、市内全域の住民が主な利用者となる「全市利用型施設」と、施設が立地する地区の住民が主な利用者となる「地区利用型施設」に分けて、適正配置に向けた検討を行うこととしています。

「全市利用型施設」については、「全市利用型施設」同士での複合化や集約化、利便性の高い位置への再配置等を行い、市全体としての魅力の向上を図るとともに、施設保有量の適正化や運営等の効率化を進めます。

一方で、「地区利用型施設」については、地区ごとに交流拠点を整備することで、地区の皆様が互いに支え合い、助け合うことができる環境の充実を図っていきます。

そのため、「全市利用型施設」は、利用圏を市域全体で捉えて配置を検討し、「地区利用型施設」は、地区ごとに配置を検討していきます。

3 検討の進め方について

- ワークショップの最終的な成果がイメージできないので、ワークショップの意見が市の最終案にどのように、どのくらい反映されるのかがわからない。

【最終的な成果のイメージについて】

ワークショップの最終的な成果をイメージしていただけるよう、昨年度ワークショップを実施した塩津地区及び西浦地区のかわら版第5号（ワークショップの最終回までを踏まえて発行したもの）を添付します。

市は、ワークショップでのご意見を含む地区の皆様のご意見を踏まえて、地区個別計画を策定します。参考に、塩津地区及び西浦地区の計画案の内容を前回資料p.21で示しましたが、同様の計画を三谷地区でも策定します。

市が検討を進める過程では、三谷地区の皆様のご意見を重視し、可能な限り多くの方々のご意見が反映されることを目指します。

- 複合化のメリットとデメリットや地区別の将来人口などのデータを示してもらい、施設の組合せや小学校の統合を検討する際の判断材料にしたい。

【提示する資料について】

今回、「データでみる三谷地区の現状」（p.27～37）をご用意いたしました。前回お示しした資料集等で特に重要と思われる情報について抜粋し整理したものです。

また、複合化についてイメージをお持ちいただけるよう「コミュニティ施設の複合化・集約化事例集」を作成しましたので参考にしてください。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 公募の参加者がもっと増えると良い。会の目的がわかりやすい名称に変えるなどの工夫をして関心を高め、参加を促すようにしてはどうか。
- 計画案を机上の空論にしないためには、施設の管理者や保育園の保護者などの利用者の意見を聞くことも大切だ。ワークショップに参加してもらえなくても、アンケートや現場調査などを行えると良い。
- 地区ごとの課題や各世代が感じている意見を出し合って、まとめていく検討プロセスに特に異論はない。住民に広く計画を知らせるために、ワークショップだけでなく地区のイベントを活用することも考えてはどうか。
- 20代、30代の参加者が少ない。（ふりかえりシートより）
- 参加年齢の問題。（ふりかえりシートより）

【コミュニケーションの方法について】

今回のワークショップは全5回の開催を通じて議論を段階的に積み上げていくため、誠に恐縮ですが今回以降新規に参加者を募集することはありません。

幅広い世代、様々な立場の方々のご意見をいただけるよう、ワークショップ以外にも、かわら版やオープンハウス（パネル展示型説明会）で、検討状況等をお知らせするとともに意見募集を行います。

オープンハウス（パネル展示型説明会）については、ご意見を踏まえて、地区のイベント会場や保育園での開催を検討します。

地区個別計画の策定に向け、市として、各施設所管部署を含む全庁横断的な体制で検討に臨むことで、学校や保育園などの現場の意見を取り入れていきます。

データで見る三谷地区の現状

1 地区の特色

- ・ 市の中東部に位置する三谷地区は、蒲郡地区と連続した市街地を形成しており、多くの住宅地があります。
- ・ 三河湾国定公園内の海岸沿いには三谷温泉が立地しており、観光地としての機能も有しています。
- ・ 蒲郡市都市計画マスタープランにおいては、地区の中心となる三河三谷駅周辺を中心都市核の機能を補完する副次都市核として位置付けているほか、三谷温泉周辺を広域的な観光レクリエーション拠点として位置付けています。
- ・ 人口は、12,934人（平成27年国勢調査）で、蒲郡市全体（81,100人）の約16%を占めており、7地区中3番目となっています。

2 地区間公共施設保有量比較

- ・ 三谷地区の地区利用型施設の人口1人あたり延べ床面積は、1.97㎡/人で、市全体の1人あたり延べ床面積と同程度となっています。

地区	人口(H27)	施設区分	公共施設保有面積(m ²)	人口1人あたり面積(m ² /人)
大塚	6,553	全市利用	16,848	2.57
		地区利用	14,820	2.26
		総計	31,668	4.83
三谷	12,934	全市利用	7,201	0.56
		地区利用	25,431	1.97
		総計	32,632	2.52
蒲郡北	12,379	全市利用	50,765	4.10
		地区利用	27,144	2.19
		総計	77,909	6.29
蒲郡南	17,038	全市利用	59,613	3.50
		地区利用	35,617	2.09
		総計	95,230	5.59
塩津	11,179	全市利用	53,670	4.80
		地区利用	17,589	1.57
		総計	71,259	6.37
形原	15,331	全市利用	9,560	0.62
		地区利用	25,632	1.67
		総計	35,192	2.30
西浦	5,686	全市利用	12,943	2.28
		地区利用	15,593	2.74
		総計	28,535	5.02
市全体	81,100	全市利用	210,600	2.60
		地区利用	161,826	2.00
		総計	372,426	4.59

※ 人口は、国勢調査データに基づき算出

※ 分析対象は、公共施設白書における対象施設

※ 地区利用型施設には、小規模施設（公園便所等）を含む

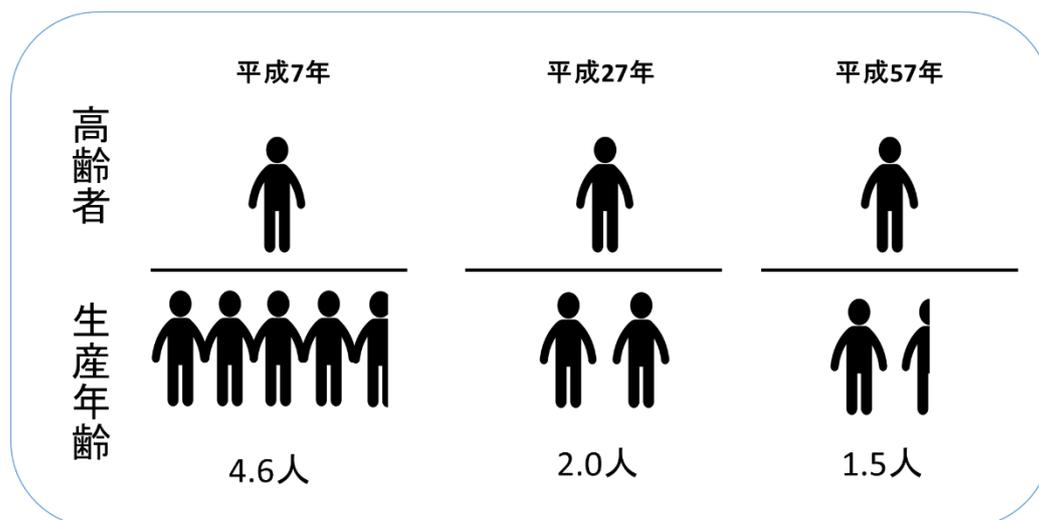
3 人口

- ・ 国勢調査のデータによると、三谷地区の人口は、平成27年までの20年間で1,157人（約8.2%）減少しました。一方で、高齢者人口は1,666人（約78.4%）増加しました。今後も人口の減少や高齢化が見込まれます。

三谷地区の人口推移

人口区分		平成7年	平成17年	平成27年	平成37年	平成47年	平成57年
高齢者人口 (65歳以上)	目標値				3,865人	3,776人	3,685人
	実績値	2,126人	2,877人	3,792人			
生産年齢人口 (15～65歳)	目標値				7,044人	6,328人	5,603人
	実績値	9,764人	8,660人	7,638人			
年少人口 (14歳以下)	目標値				1,469人	1,428人	1,410人
	実績値	2,137人	1,757人	1,449人			
総計	目標値				12,378人	11,532人	10,698人
	実績値	14,091人	13,297人	12,934人			

- ※ 目標値は、「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を三谷地区に適用して算出
- ※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出（総数には年齢不詳を含む）



- ・ 高齢者（65歳以上）1人に対する生産年齢人口（15歳～64歳）の人数は、平成7年当時は4.6人だったものが平成27年には2.0人に減少しています。また、平成57年には1.5人にまで減少する見込みです。

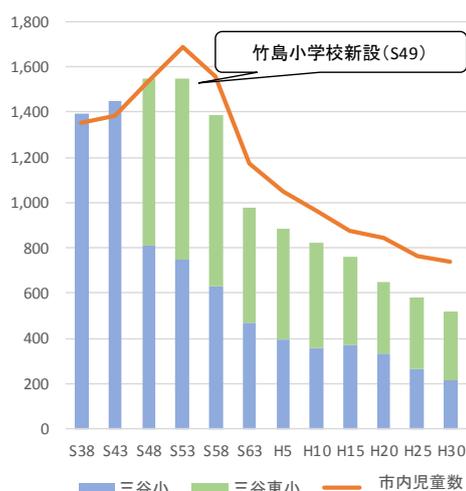
4 各公共施設の利用状況（資料集から抜粋）

(1) 小学校・中学校の児童・生徒数の推移（資料集p.14）

(人)

	S38	S43	S48	S53	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30	S53を基準とした H30の割合
1 蒲南小	1,950	1,954	1,600	1,064	856	591	522	382	367	365	333	332	31.2%
2 蒲東小	413	421	499	445	485	375	352	385	345	339	294	284	63.8%
3 蒲北小	366	379	455	523	429	293	273	272	298	301	298	323	61.8%
4 蒲西小	206	185	156	136	184	140	124	123	92	105	74	67	49.3%
5 三谷小	1,393	1,449	810	749	633	469	394	357	372	330	262	215	28.7%
6 塩津小	551	581	809	1,066	1,038	808	715	685	654	579	518	527	49.4%
7 大塚小	396	402	418	527	590	488	394	408	356	385	308	297	56.4%
8 形原小	1,461	1,075	952	955	863	676	647	569	488	500	391	353	37.0%
9 西浦小	770	810	852	852	829	628	523	495	399	309	214	245	28.8%
10 形北小		447	596	947	846	628	587	499	486	534	570	520	54.9%
11 中央小			671	721	661	527	483	412	306	286	334	304	42.2%
12 三谷東小			738	802	755	507	489	467	389	320	320	303	37.8%
13 竹島小				575	485	376	314	306	294	331	337	329	57.2%
14 蒲中	1,991	1,419	1,443	1,061	981	891	651	592	530	487	520	517	48.7%
15 三谷中	986	700	718	726	713	705	460	460	410	383	318	294	40.5%
16 塩津中	342	269	332	442	495	535	376	351	331	308	317	257	58.1%
17 大塚中	253	192	199	218	270	268	238	184	187	194	184	147	67.4%
18 形原中	958	726	812	816	836	825	621	653	517	478	517	474	58.1%
19 西浦中	545	358	405	452	399	414	303	245	227	196	148	101	22.3%
20 中部中				665	699	616	465	450	380	355	338	334	50.2%
計(小学校)	7,506	7,703	8,556	9,362	8,654	6,506	5,817	5,360	4,846	4,684	4,253	4,099	43.8%
計(中学校)	5,075	3,664	3,909	4,380	4,393	4,254	3,114	2,935	2,582	2,401	2,342	2,124	48.5%
合計	12,581	11,367	12,465	13,742	13,047	10,760	8,931	8,295	7,428	7,085	6,595	6,223	45.3%

三谷地区児童数推移(小学生)



三谷地区生徒数推移(中学生)



- 市内全体の児童生徒数が最も多かった昭和53年と平成30年を比較すると、三谷地区の各学校の児童生徒数は当時の約3~4割にまで減少していることが分かります。

(2) 保育園の園児数の推移 (資料集 p.22)

単位:人

保育園名	H30定員	14年度	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度	28年度	30年度
東部保育園	70	77	76	65	67	65	56	56	62	53
北部保育園	140	85	53	71	113	137	117	110	108	108
西部保育園	70	39	48	45	31	30	47	31	35	37
塩津保育園	60	54	64	58	58	52	38	34	24	21
大塚保育園	80	75	79	76	69	58	55	65	58	55
府相保育園	130	108	102	120	125	132	98	108	84	105
三谷東保育園	140	129	123	124	121	124	140	126	106	108
大塚西保育園	60	57	66	57	39	35	30	31	32	21
三谷西保育園	90	96	95	99	91	99	75	58	57	66
形原保育園	100	67	63	70	52	30	56	73	70	82
中部保育園	160	116	122	130	130	137	147	118	129	146
南部保育園	150	80	70	63	51	75	93	125	148	148
形原南保育園	100	86	91	89	104	110	93	75	77	75
西浦保育園	120	120	100	89	72	86	83	88	89	86
鹿島こども園	140	119	120	113	131	112	121	129	130	150
みどり保育園	140	107	101	95	88	92	101	124	132	138
形原北保育園	90	85	88	78	92	76	91	72	78	77
塩津北保育園	60	63	62	49	40	29	46	53	42	24
総計	1,900	1,563	1,523	1,491	1,474	1,479	1,487	1,476	1,461	1,500

(各年度4月1日現在)

園児数推移



- ・ 市内全体の園児数に大きな変化は見られませんが、平成 22 年度以後に三谷西保育園の園児数が比較的大きく減少しています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(3) 児童館の利用状況（資料集p.24）

開館日：毎週月曜日から土曜日

（日曜日・祝日は休館）

対象：0～18歳の子ども

※ 小学1年生からは子どものみでの利用が可能

平成29年度年間利用者数

	開館日数	乳幼児		小学生		中高生		その他		団 体 利 用 客	児 童 ク ラ ブ	合計	
		利用数	平均	利用数	平均	利用数	平均	利用数	平均			利用数	平均
がまごおり	294	10,784	36.7	2,951	10.0	238	0.8	8,753	29.8	73	9,035	31,834	108.3
かたはら	294	7,754	26.4	2,525	8.6	114	0.4	6,930	23.6	167	5,293	22,783	77.5
みや	294	8,972	30.5	3,589	12.2	370	1.3	7,447	25.3	64	3,048	23,490	79.9
おおつか	294	3,690	12.6	2,928	10.0	237	0.8	3,118	10.6	308	7,188	17,469	59.4
にしうら	294	7,216	24.5	4,239	14.4	544	1.9	5,992	20.4	98	4,386	22,475	76.4
しおつ	294	5,974	20.3	3,336	11.3	528	1.8	5,255	17.9	232	8,087	23,412	79.6
ちゅうぶ	294	11,238	38.2	7,312	24.9	1,205	4.1	9,745	33.1	132	2,442	32,074	109.1

乳幼児向けイベント

- えほんとうた（毎週火曜日）
絵本の読み聞かせなど
- リズムあそび（毎週金曜日）
体操やふれあい遊びなど親子で一緒に体を動かすあそび
- 赤ちゃんサロン（第2・第4水曜日）
0歳児を対象とした絵本の読み聞かせやふれあい遊び

小学生向けイベント

- よみきかせ
- たつきゅう教室
- 将棋教室
- 手芸教室
- 夏祭り など



- 平成29年度年間利用者数をみると、1日平均約80の方がみや児童館を利用していることが分かります。
- みや児童館内には三谷小学校の児童クラブが設置されており、1～4年生の29名が利用しています。（H30.4.1現在）



リズム遊びや読み聞かせの様子

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(4) 公民館の利用状況 (資料集 p.26)

○公民館別 利用状況

施設名称	利用者数(人)	貸部屋 利用率(%)	貸部屋 一覧
三谷公民館	33,730	18.7%	【9部屋】集会室(第1～6)、大集会室、和室、調理室、(館外等)
蒲郡公民館	17,158	25.2%	【6部屋】和室1・2、研修室、調理室、多目的ホール1・2、多目的ホール3、(館外等)
小江公民館	14,983	24.0%	【6部屋】ホール(1F・3F)、小会議室、講座室、和室、料理室、(館外等)
府相公民館	21,520	25.4%	【7部屋】集会室(第1・2・3)、大集会室、和室(1階・3階)、調理実習室、(館外等)
東部公民館	28,763	18.1%	【6部屋】小会議室、南研修室、和室、研修室、大会議室、料理室、(館外等)
北部公民館	27,035	16.0%	【5部屋】会議室、ホール、調理室、和室(1・2)、(館外等)
西部公民館	10,385	20.1%	【6部屋】和室(南・中・北)、ホール、図書室、調理室、(館外等)
塩津公民館	17,636	17.8%	【6部屋】講義室、図書室、調理室、会議室、北和室、南和室、(館外等)
大塚公民館	28,401	22.1%	【6部屋】集会室、会議室、小会議室、控室、和室、料理室、(館外等)
形原公民館	23,549	26.7%	【7部屋】会議室(1～3)、大ホール、中ホール、和室(東・西)、(館外等)
西浦公民館	31,440	18.4%	【8部屋】本館研修室(1・2)、本館講堂、本館会議室(1・2)、調理室、南館談話室、南館会議室、(館外等)
全館平均	23,145	21.1%	

※貸部屋利用率の算出方法(カッコ内は三谷公民館):

貸部屋別、時間区分別(午前/午後/夜間)の合計貸部屋利用回数(1,496)

÷ 貸部屋予約可能枠数合計 (7,992) 【貸部屋数(9) × 時間区分(3)(午前/午後/夜間) × 開館日(296)】

○三谷公民館 部屋別 利用率

施設名称	利用者数(人)	貸部屋別 利用率(%)	時間区分別 利用回数			
			午前	午後	夜間	計
第1集会室	1,290	17.1%	20	107	25	152
第2集会室	2,193	18.7%	18	129	19	166
第3集会室	2,493	8.7%	17	46	14	77
第4集会室	661	10.9%	6	55	36	97
第5集会室	1,833	20.8%	33	119	33	185
第6集会室	1,329	8.9%	10	52	17	79
大集会室	10,990	67.5%	228	160	211	599
和室	1,345	14.2%	37	82	7	126
調理室	150	1.7%	8	6	1	15
その他【全館・図書室・館外(クラブ活動)等】※	11,446					
合計	33,730	18.7%	377	756	363	1,496

※館外・・・クラブ活動の屋外活動の受付業務や図書館分室の利用など。貸部屋利用率には含まない。

※全館・・・三谷まつりの開催日など全館を利用すること。貸部屋利用率には反映済み。

○三谷公民館 世代別 使用状況

	講座数	延利用者数	世代占有率(利用者)	使用回数	世代占有率(回数)
定期クラブ活動(館外除く)	33種類	16,349	100.0%	1,277	100.0%
大人対象のクラブ活動	31種類	15,481	94.7%	1,200	94.0%
子ども対象のクラブ活動	2種類	868	5.3%	77	6.0%
その他一般活動(館外除く)		5,935		219	
館内利用小計		22,284		1,496	
館外活動など(学校施設利用など)		11,446		196	
合計		33,730		1,692	

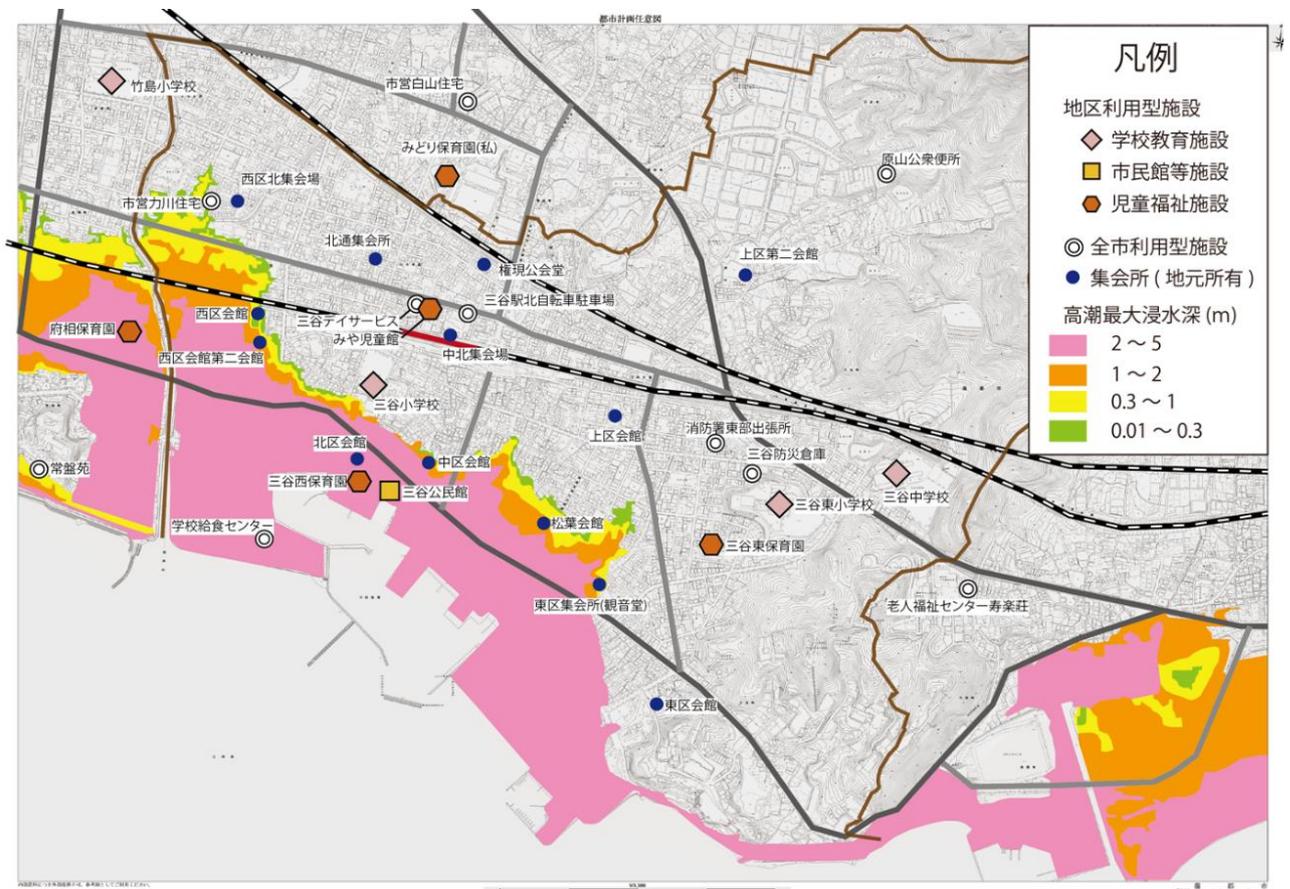
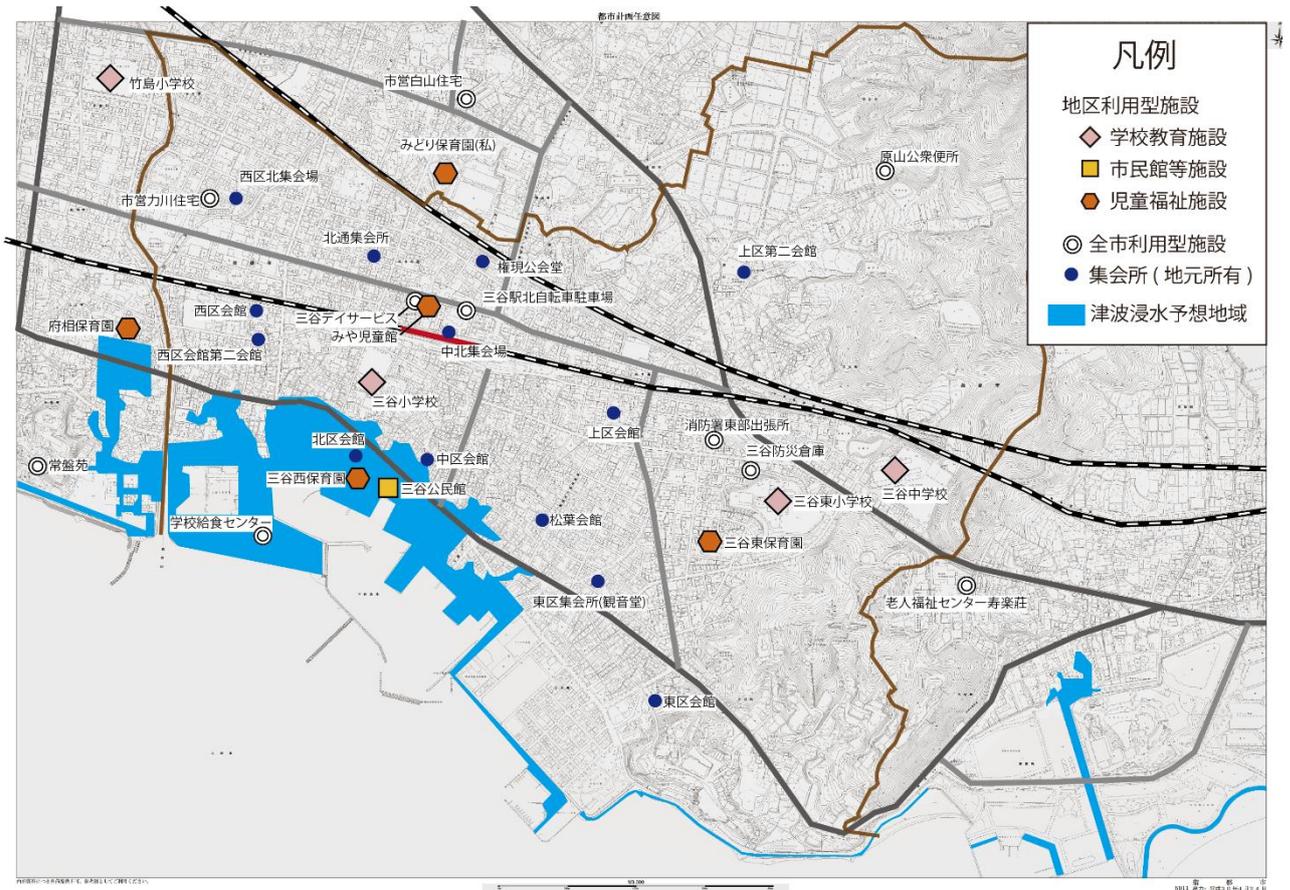
※定期教室・クラブ・・・子ども卓球教室、絵本と紙芝居、囲碁、一分の会、大人の卓球、切り絵、詩吟(昇真会)、将棋教室
 箏曲・尺八、太極拳、グラウンドゴルフ、ダーツ、ブルーメール、スポーツダンスクラブ、雅楽、煎茶、書道
 今日から運動、高砂会カラオケ、高砂会ダーツ、舞踊紅梅会、民謡三高会、3B体操教室、華道、手芸
 主婦の健康づくり、水墨画、大正琴、籐工芸、スリム会、和紙ちぎり絵、わかくさ、みんなでヨガ

※一般利用・・・三谷まつり関連利用、伝統文化こども教室、会議、料理教室など

- ・ 三谷公民館は市内 11 館の中で最も利用者数が多い一方で、貸部屋利用率は全館平均を下回っていることがわかります。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(5) 津波・高潮の浸水想定地域（資料集p.2～3）



施設名称	概況（特徴・課題等）
三谷小学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 32 年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・ 児童数 215 人（H30.5.1 現在） ・ 普通学級数 9（1 年から 2・1・1・1・2・2）、特別支援学級数 1 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震補強済み。
三谷東小学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 32 年に建設されている。 ・ 児童数 303 人（H30.5.1 現在） ・ 普通学級数 12（全学年 2 クラス）、特別支援学級数 3 ・ もともと三谷中学校として整備された施設であり、校舎・敷地が広い。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～4 年生（47 人）が利用している。（H30.4.1 現在） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震補強済み。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

施設名称	概況（特徴・課題等）
三谷中学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い校舎は昭和 48 年に建設されている。 ・ 生徒数 294 人（H30.5.1 現在） ・ 普通学級数 9（全学年 3 クラス）、特別支援学級数 3 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震補強済み。
三谷東保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 49 年に建設。 ・ 園児数 108 人（定員 140 人）（H30.4.1 現在） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 隣接する大塚地区の保育園には 2 歳未満児のクラスがなく、地区外から通園する園児もいる。 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震補強済み（平成 29 年度に再補強実施済み）。
三谷西保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 46 年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・ 園児数 66 人（定員 90 人）（H30.4.1 現在） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 愛知県が発表している津波浸水想定域内にある。 ・ 耐震補強済み（平成 29 年度に再補強実施済み）。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

施設名称	概況（特徴・課題等）
みや児童館	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 8 年に建設。 ・ 0～18 歳の子どもを対象とした施設。 ・ 1 階部分に三谷デイサービスが入っており複合施設となっているが、平成 30 年度をもってデイサービスの民間施設への移転が決まっている。 ・ 三谷小学校の児童クラブが設置されており、1～4 年生（29 人）が利用している。（H30.4.1 現在） ・ 指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 新耐震基準による建築物。
三谷公民館	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 46 年に建設。 ・ 愛知県が発表している津波浸水想定域内にある。 ・ もともと東部市民センターがあったこともあり、他地区の公民館よりも規模が大きい。 ・ 平成 30 年耐震補強実施予定。

指定避難所 : 災害の危険があり避難した住民等が、災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅に戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを想定した施設

指定緊急避難場所 : 災害の危険から命を守るために一時的に避難をする場所

【地区利用型施設一覧】（前回資料と同じ内容）

施設名称	延床面積 (㎡)	建築年	老朽化度	危険区域該当		指定避難所	指定緊急避難場所	防災設備の有無				市の支出				市の収入 (千円)	市の負担額 (千円)	面積あたり市負担額 (円/㎡)	利用者数			平均園児数 (人)	平均児童・生徒数 (人)	貸部屋等利用率 (%)	ハード評価 (偏差値)	ソフト評価 (偏差値)
				津波浸水	土砂災害			防災備蓄用品	非常用発電装置	非常用通信装置	災害用電話配線	施設に係るコスト (千円)	事業運営に係るコスト (千円)	人に係るコスト (千円)	指定管理料 (千円)				3年平均 (人)	1日あたり平均 (人/日)	面積あたり1日あたり平均 (人/㎡・日)					
三谷小学校	6,092	S32	3.0			○	○	○	○	○	○	11,914	7,702	9,733	0	93	29,256	4,802	—	—	—	—	275	—	41.4	52.7
三谷東小学校	6,548	S32	2.9		○	○	○	○	○	○	○	24,761	7,648	2,700	0	93	35,016	5,348	—	—	—	—	317	—	42.7	51.4
三谷中学校	7,939	S48	2.7			○	○	○	○	○	○	34,295	8,014	7,033	0	93	49,250	6,204	—	—	—	—	330	—	45.7	48.6
三谷東保育園	1,252	S49	2.9			○	○	○		○	○	7,014	32,135	85,900	0	27,997	97,052	77,538	—	—	—	145	—	—	45.2	47.5
三谷西保育園	1,002	S46	3.0	○							○	4,359	19,669	63,533	0	16,497	71,065	70,903	—	—	—	83	—	—	43.2	47.6
みや児童館	490	H8	1.5				○	○		○		3,293	3,101	8,100	0	1,038	13,456	27,483	23,637	80.4	0.164	—	—	—	62.9	51.9
三谷公民館	1,854	S46	2.6	○								1,767	2,330	4,009	0	21	8,085	4,361	30,921	102.9	0.056	—	—	16.4	49.8	53.1

出典：平成 26 年度蒲郡市公共施設白書

※複数の建物で構成されている施設の築年数は、最も建築年の古い建物をもとに掲載しています。

※「危険区域該当」における「津波浸水」は平成 26 年 5 月 30 日発表 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査に基づく津波浸水区域を指します。

※「土砂災害」は愛知県による土砂災害特別警戒区域を指します。

※「非常用発電装置」は自家発電装置ならびに小型発電機を指します。

※「非常用電話配線」は災害時優先電話を指します。

※市の支出・収入・負担額及び利用状況の値は 3 カ年度（平成 23～25 年度）の平均値を掲載しています。

課題解決に向けた視点の整理

- 第1回ワークショップでいただいたご意見が、どのような視点で発言いただいているのか、事務局で整理しました。
- まちづくりや公共施設に関していただいたご意見は、9つの視点に分類することができますと考えられます。

視 点	ご意見要約
① 地区のまとまり	<ul style="list-style-type: none"> ● 三谷祭など地域の伝統や風習を守っていける環境、地域活動ができる場の整備 ● 行政区と学区が異なり、一体感に欠ける（若い世代はそれが障壁にはなっていないとの認識も）
② 地区の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少を回避するための投資が必要（商業振興）
③ 学校教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童数減に考慮した三谷小学校、三谷東小学校の統合が計画のポイントとなる
④ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後の子どもの居場所づくりが必要
⑤ 多世代が活動・交流できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども、若者、元気な高齢者が交流できる施設ができるとよい
⑥ 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ● 再編した場合の防犯対策、安全面への配慮 ● 老朽化の解消が必要 ● 風水害、地震災害に対応した施設配置・避難所設置が必要
⑦ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な駐車スペースの確保 ● バスなどの公共交通の再編（保育園送迎の負担軽減）
⑧ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設集中による無駄の解消 ● スペースの有効活用（空き教室・空き家・現デイサービス）
⑨ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用ルールの緩和 ● 予約方法の簡素化 ● 魅力的なソフト展開 ● 各施設の利用方法・活動実態の見える化
⑩ . . .	

※皆様のご意見をどのように本資料の形に整理したかについてはp.39～42「第1回ワークショップでいただいたご意見の整理」をご覧ください。

第1回ワークショップでいただいたご意見の整理

- 第1回ワークショップでは、様々な観点からワークショップの進め方や三谷地区の課題等についてご意見をいただきました。
- いただいたご意見がどのような視点に基づいているのかを事務局において整理し、下表のとおり分類しました。
- 「回答を用意しています」としている項目については、p.18～26の「ご質問等への回答」で、事実関係や市の考えなどの回答を用意しています。
- 「進め方についてのご意見」としている項目は、今後のワークショップ等の運営にあたり特に留意すべき事項として整理します。
- まちづくりや公共施設に関するご意見については、次の①～⑨に分類し、この分類に基づき、p.38「課題解決に向けた視点の整理」を作成しました。

【第1回ワークショップでのご意見の分類】

- ①地区のまとまり ②地区の活性化 ③学校教育環境の適正化 ④子育てしやすい環境づくり ⑤多世代が活動・交流できる場づくり
 ⑥防災・防犯 ⑦利便性の確保 ⑧将来負担の縮減 ⑨運営の改善

※ここでご意見をいただいた内容について、公共施設の将来を考えていくことを通じて解決していきたいと市は考えています。

(1) 進め方、公共施設マネジメントの取組みについてのご意見

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
公共施設マネジメント実施計画の考え方	生活が不便になればますます人口は減ると思うので、縮小ばかりを考えず、商業振興などの人口を増やすための施策に投資をすることも必要だ。	②地区の活性化
	本当に将来の維持更新費が足りなくなるのか。長寿命化の考え方や平均値の取り方など、シミュレーションの方法に疑問があるので説明を聞いても納得できない。データの根拠を示してほしい。	回答を用意しています
	個別の施設に耐震化をして投資を分散させるよりも、新しい施設に集中させた方が無駄がないと思う。将来的に子どもの数が更に減っていくなら、学校を整理することも含めて早期に配置計画を検討すべきだ。	③学校教育環境の適正化 ⑧将来負担の縮減
地区個別計画策定に向けた検討の進め方	公共施設の再整備を考える前に、目指すべきまちの将来像を描く必要があるのではないか。	まちづくりや公共施設全般に関するご意見
	行政区と学校区が異なることが地域にとっての課題になっている。三谷中学校区だけでなく、地域の子供達の一部が通学している竹島小学校と蒲郡中学校、ひいては近接している東部小学校も含めて、施設の再編を考える必要があると思う。	①地区のまとまり
	学校に他の施設を複合することが前提ではないとのことだが、地区内にある検討対象施設が学校、公民館、保育園などとなると、学校に集めることになるのかと思った。	⑧将来負担の縮減
	地区個別計画では地区利用型施設だけについて検討するということが、地区内の公共施設の配置バランスを考えると、全市利用型施設の配置も踏まえる必要があると思う。地区利用型と全市利用型の施設配置計画の整合をどのようにとりつくりたいのか市の見解を聞きたい。	回答を用意しています

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
ワークショップの進め方	ワークショップの最終的な成果がイメージできないので、ワークショップの意見が市の最終案にどのように、どのくらい反映されるのかがわからない。	回答を用意しています
	ワークショップが話し合ったという事実だけを作る場にならないために、出された意見がどのように反映されたかやワークショップを通じて検討された計画の進捗状況などを、参加者にしっかりフィードバックしてほしい。	進め方についてのご意見
	ワークショップの中で意見が分かれた場合には、熟議によって共通の方向性を探ることも必要だと思う。そうしないと単に意見を聞く場になってしまうのではないか。	進め方についてのご意見
	公募の参加者がもっと増えると良い。会の目的がわかりやすい名称に変えるなどの工夫をして関心を高め、参加を促すようにしてはどうか。	回答を用意しています
	計画案を机上の空論にしないためには、施設の管理者や保育園の保護者などの利用者の意見を聞くことも大切だ。ワークショップに参加してもらえなくても、アンケートや現場調査などを行えると良い。	回答を用意しています
	地区ごとの課題や各世代が感じている意見を出し合って、まとめていく検討プロセスに特に異論はない。住民に広く計画を知らせるために、ワークショップだけでなく地区のイベントを活用することも考えてはどうか。	回答を用意しています
	複合化のメリットとデメリットや地区別の将来人口などのデータを示してもらい、施設の組合せや小学校の統合を検討する際の判断材料にしたい。	回答を用意しています

(2) 三谷地区の公共施設の課題に関するご意見

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
地区のまちづくりの方向性	子どもから高齢者までが住みやすいまちを目指して、多世代の交流が図られ、子育てしやすい環境づくりや教育の質の向上につながる計画を作ってほしい。	④子育てしやすい環境づくり ⑤多世代が活動・交流できる場づくり
	西区では一部竹島小学校に通っている子ども達がいるので、地区住民としての意識が低下し、地区の一体感に欠けてきているように思う。行政区と学校区が異なるのは、所属するコミュニティがちぐはぐになるということでもあり、子どものためにも良くない。学校区の変更や選択性の導入を検討できるとよい。	①地区のまとまり
	若い世代の感覚としては、現状の行政区と学校区の違いをそこまで問題視していない。竹島小学校に通っていても三谷祭りには協力してくれているので、それだけでもありがたいと思っている。	①地区のまとまり
	三谷祭の伝統や風習を背景にした三谷のコミュニティを今後も守っていききたい。閉鎖的とも言われるが、一旦馴染めば良好な関係性が築ける土地柄なので、地域コミュニティの形成や主体的な活動が促されるような計画づくりができると良い。	①地区のまとまり
	区によって人口や世帯数などの状況が違うので、それぞれの区の実情に沿った計画を作ってほしい。	まちづくりや公共施設全般に関するご意見

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
公共施設の現状や今後について気になること (公共施設全般)	施設を複合化して1つの施設が様々な目的を持つことで、利用者が多様化し、利用率のアップや多世代の交流の創出などのメリットが生まれると思う。ただ同時に、子どもと高齢者が一緒にいることは難しいのではないかと思う。	⑤多世代が活動・交流できる場づくり ⑥防災・防犯
	学校の空き教室やまちなかの空き家などを有効利用することを考えてはどうか。空き教室を利用する際には、十分な機能を果たせるだけのスペースが確保できるかを検討した上で、学校に多くの人が入り出すことによる危険性などのデメリットにも配慮する必要がある。	⑥防災・防犯 ⑧将来負担の縮減
	学校を始めとして老朽化している施設が多く、対策が必要だと思う。三谷地区は海に近いので、津波や強風などの災害による被害も心配だ。	⑥防災・防犯
	より多世代が利用しやすくなり利用率を向上させるためには、ハード面だけではなく、利用ルールの緩和や予約方法の簡素化などのソフト面の整備も必要だ。	⑨運営の改善
	公民館などの公共施設をほとんど使っていない若い世代などは、利用方法やどんな活動ができるかなどがわからない状況ではないか。	⑨運営の改善
	放課後の子ども達の居場所、デイサービス以外の比較的元気な高齢者のための施設、学習スペースのある図書館などが地区にあると良い。	④子育てしやすい環境づくり ⑤多世代が活動・交流できる場づくり
	三谷駅や公共施設の駐車場が少なく、路上駐車の問題も発生している。	⑦利便性の確保
公共施設の現状や今後について気になること (小学校・中学校)	小学校も中学校も老朽化しているので、子ども達の安全が確保できるかという不安がある。避難所でもあるので、施設を新しくするならば学校だと思う。安全な避難所があることは人口の流入にもつながるのではないか。	⑥防災・防犯
	小学校の生徒数が減っていることを考えると、三谷小学校か三谷東小学校かのどちらかに統合するのがこの地区の個別計画のポイントになると考えている。各校の伝統や災害時の安全性などの様々な観点から、統合の方向性を検討できると良い。	①地区のまとまり ③学校教育環境の適正化 ⑥防災・防犯
	学校を小さな子ども達から高齢者まで多世代が交流できるような施設にできると良い。	⑤多世代が活動・交流できる場づくり
	三谷東小学校の児童クラブは三谷東小学校にあるが、三谷小学校の児童クラブは児童館を使っている。子どもの放課後の居場所として、小学校をもっと活用してほしい。	④子育てしやすい環境づくり

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
公共施設の現状や今後について気になること (保育園)	三谷西保育園と三谷東保育園をひとつにまとめて、災害の危険性のないところに新築できると良いと思うので、保育園の統廃合を進めてほしい。	⑥防災・防犯
	市内のバスや保育園バスなどを活用することで、保育園の送迎の負担を軽減できないか。	④子育てしやすい環境づくり ⑦利便性の確保
公共施設の現状や今後について気になること (公民館)	せっかく良い施設があるのだから、営利目的にも使えるように規制を緩めたり利用を促すソフトを展開することで、公民館を祭りや日中の年配層利用以外にも使われる場にできると良い。	⑨運営の改善
	公民館は祭りの際に重要な施設で、立地的にも使いやすい。無料で使える場を必要としている現状の利用者にとっても欠かせない施設だ。ただし、高潮の影響などの心配がある。	⑨運営の改善
公共施設の現状や今後について気になること (児童館)	児童館の建物はまだ新しいので、1階のデイサービス部分が空くのであれば、図書館などの機能を入れて有効活用できると良い。	⑧将来負担の縮減

(3) その他のご意見

区 分	第1回ワークショップでいただいたご意見	分 類
その他	地区の集会所が老朽化しているので、安全性確保のためには耐震化する必要があるが、状況は地区によってまちまちだ。公共施設の複合化や集約化を検討する際は、集会所の建替え状況も踏まえる必要があるのではないか。	対象施設以外の施設についてのご意見
	消防団倉庫は今回の議論の対象ではないが、建て替えが必要な時期を迎えているので、他の機能を複合することなども考えながら検討してほしい。	対象施設以外の施設についてのご意見
	バスの利便性、不審者による治安の悪化など、地区には公共施設以外の課題もある。	⑥防災・防犯 ⑦利便性の確保
	ワークショップの資料を送付する際には、一目でそれとわかるような封筒にするなど、他の郵便物と間違えないように配慮してほしい。	進め方についてのご意見

本日の検討内容

- ① 第1回ワークショップで出された意見を反映し、皆さんが大切と思っている9の視点をまとめました。皆様のご意見は反映されていますか。追加すべき視点はありますか。

(ワークショップを通じて得られた視点)

- | | |
|----------------|---------------|
| ①地区のまとまり | ②地区の活性化 |
| ③学校教育環境の適正化 | ④子育てしやすい環境づくり |
| ⑤多世代が利用できる場づくり | ⑥防災・防犯 |
| ⑦利便性の確保 | ⑧将来負担の縮減 |
| ⑨運営の改善 | |

- ② 各々の視点について、課題を解決するためにどのようなことに具体的に取り組んでいくとよいでしょうか。

次回ワークショップのご案内

「第3回三谷地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

平成30年9月30日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

三谷公民館 3階 大集会室

3 お願い

- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので当日ご持参下さい。
- ・ 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp